

公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま

2024 年度(令和 6 年度) 事業計画書



(2024 年 3 月 10 日理事会 議決)

2024 年度事業方針と重点テーマ

一人一人の思いをカタチに！

「人財・団体の育成機能を強化し、ともに成長する。」

2023 年度は、「寄付の喜びを実感できる社会の実現を！」をテーマに、寄付との接点が増えるように、また寄付者の満足度を高められるように事業にとりくみました。10 月には「スポーツ×寄付」をテーマに 422 人マラソンリレー（2 回目）を開催、12 月の寄付月間には、「文化×寄付」をテーマに寄付月間まつり（3 回目）を開催しました。どちらも実行委員会形式で、地域みなさんや中学生、高校生、大学生とつくりあげ、地域のイベントとして定着していくように仕組みづくりをすすめました。また、マンスリーサポーターの皆様への情報発信体制の見直し、寄付者と NPO 団体の交流会など寄付者との関わりについても深めてまいりました。

また、「みんつく×〇〇」の推進として、司法書士会、弁護士会の行事での事業や団体の紹介を行い、福武教育文化振興財団や大原美術館と子どもたちが美術館に行く仕組みづくりを推進しました。みんつくと直接の関わりがなくとも、日常の様々な機会から接点をもてるように、地域のインフラとなるように取り組みをすすめました。

2024 年度は、評議員および役員改選の年でもあり、体制を大きく見直す機会となります。地域のインフラとしての役割を定着させていくためにも、改めて、みんつくが目指す姿（必要な機能）を考え、それに必要な仕組みや体制の整備を行っていきます。

特に、みんつく内部も含めて、団体・人財の育成機能の強化を目指し、セミナーや既存の仕組みを活用するとともに、公益人財を育成するシステム作りをすすめ、地域の人や団体、一人一人の思いが形になるスピードが速くなるような成長支援をすすめてまいります。



【2024年度 3本の柱】

○ インフラとしての機能の見直しと強化

コミュニティ財団として必要な機能はなにか、それを維持・発展させていくために必要なことはなにかを見直し、取り組みます。役員改選の年でもあり、理事、事務局の力を発揮しやすい環境づくりとして、ルールの明文化や事業執行規則の見直しを行います。また、関係者の力を発揮しやすい仕組みづくりとして、理事がかかわり事業を実施するとともに、OB・OG ネットワークを活用していきます。

- ・新体制（事務局長新任）を踏まえて運用ルールの見直しと明文化
- ・要綱規定類の改正および事業執行規則の改定
- ・OB・OG ネットワークの運営開始

○ 人財・団体の育成

みんつく内外の、人財や団体を対象に、学びの場やつながりの機会提供等、成長を促すサポートを行っていきます。また公益人財の育成のシステム作りをすすめ、一人一人の思いをカタチにできる社会を目指し、取組を進めてまいります。

- ・学生公益アルバイトやインターン受入の仕組みづくり
- ・公益人財育成の連続講座の開催

○ 新たな価値創造の取組（関係機関との連携）

寄付や連携により、新たな価値創造（みんなのあったらいいなを実現する」）力を高めてまいります。特に子どもたちの学びの支援や文化・体験活動の機会の提供など、岡山市内で子どもたちが育つ環境の整備を他機関と連携し、進めてまいります。

- ・奨学金ネットワークの構築強化（他組織との連携）
- ・ももたろう基金 最終報告書の作成（関連団体との関係性再構築）
- ・ハローミュージアムプロジェクトの推進
- ・事業指定助成および冠基金の仕組みの見直し

【事業内容】

A.資源循環事業

(1) 助成事業

ア 事業指定助成プログラム

事業を公募し、審査委員会で審査後、その事業に賛同する市民・企業から寄付募集を行い、寄付金を財源として助成を行います。

(今年度のポイント)

・ 2023 年度に策定した制度を運用する。

※団体を常時募集し、プロジェクトの組成支援が主の目的でなく団体の基盤強化を目的に制度設計する。

■事業実施

- ・ はじめの一步型：前期・後期 2 回の実施
20～40 万の事業 × 3 プログラム程度
- ・ 事業発展型：常時（継続）
50～100 万の事業 × 2 プログラム程度

イ 冠基金事業

基金を設置したい市民・企業から寄付金を募集し、寄付者の意向に従いテーマ設定をし、そのテーマでの事業を公募し、助成します。

(今年度のポイント)

・ 企業基金の設置に注力し、提案を強化する。

- ・ 既存の団体や仕組みを活用した基金設置の検討。
- ・ 助成した後の団体の経営基盤強化を支援
- ・ 奨学金助成の強化（ネットワークの構築）
- ・ スモールチャレンジの応援（四半期ごとの助成実施）

■助成の実施

第 11 回通常助成については、第 2 四半期理事会において、助成方針を決定し、冬頃事業募集を実施する。また、FUN LIFE 基金とみんつく子ども基金（社会変革基金）BRIDGE SETOUCHI 基金は、四半期ごとに募集を実施し、スモールチャレンジを応援し、コロナの影響や社会状況の変化に対応できるように取り組んでいく。

ウ 社会変革基金

取り組まなければならない課題を可視化し、その課題解決に必要な資金を広く市民に基金を設置し、チャレンジを促すために助成を実施します。
(今年度のポイント)

- ・ももたろう基金事業報告書作成
(2024 年度内に全助成事業完了見込み)
- ・みんつく災害支援基金の活用のため、緊急時対応のマニュアル作成と防災訓練の開始 (OB・OG ネットワーク活用)

- 地域助け合い基金 (継続) 管理費 20%
- みんつく子ども基金 (継続) 管理費 20%
- みんつく災害支援基金 (継続) 管理費 20%
- にいみ復興基金 (継続) 管理費 20%

第 2 四半期理事会において、今年度の助成方針を決定し、冠基金と同様に募集を行う。(みんつく子ども基金は寄付状況をみつつ、四半期ごとに助成実施)

(2) 円卓会議

様々な分野の人が集まり、一つのテーマについて考える会議の実施、課題について話すことで知恵や情報をだしあい、解決のための役割分担や啓発を行います。今年度は、みんつくの体制変更の年でもあり、コミュニティ財団の機能を考える円卓会議を開催します。また、Share 会議から発展して円卓会議を開催するなどまちの話題についてみんなで考える仕組みづくりを行います。そのほか、行政や市民団体等から依頼があったテーマについて開催またはコーディネートを実施します。

(今年度のポイント)

- ・まちの普段の話題からテーマをとりあげ、開催する流れの構築
→ 地域の問題を身近に感じる仕掛けづくり
- ・みんつくについて考える円卓会議を開催

B.寄付文化創造事業

チャリティーイベントや寄付文化について考える交流会、また寄付に関わるイベントの開催や寄付付商品の開発を行い、寄付を体験する機会を提供するとともに助成事業等の原資になる寄付集めを行います。

■ 募金箱と乾杯チャリティキットの設置場所のコミュニティ化

コロナの影響で活動ができない時期が続いていたが、総社エリアにおいて、募金箱や乾杯チャリティキット設置場所を増設し、定期的に情報提供するなど関係性を強化し、コミュニティ化します。

■ 「ツクる日」企画の開催（毎月 29 日頃）

毎月 29 日頃に、寄付や社会的投資に関わる企画を実施します。

422 人マラソンリレー（3 年目）や寄付月間祭り（4 年目）の定着を促すために、継続的な運営ができるよう、運営方針の見直しと体制強化をはかります。また、3 月 29 日は、「みんつくの日」として事業報告会を兼ねた交流会を開催します。

■ 交流会・報告会の開催（年 2 回以上）

寄付者や助成団体などの交流会や報告会を開催し、みんつく財団に関係する人の交流の輪を広げます。

■ 寄付月間の活用

12 月の寄付月間に NPO や企業等と連携し、寄付キャンペーンを実施します。2021 年度から開催した寄付月間まつりをより発展させるとともに、寄付の意義について実感できるように取り組みをすすめます。

■ 寄付の教室の開催（年 1 回以上）

寄付の教室を開催し、寄付やお金の使い方について考える機会を提供するとともに、学校や先生との連携強化し、寄付の教室の後の活動（寄付月間祭りなど）につながる仕組みを構築します。

C.情報発信・人財育成事業

公益活動支援に関する内容について、講師・研修依頼およびコーディネートを受け付け、講演・研修・ノウハウ移転を実施します。また当法人主催で資金調達や情報発信など市民公益活動に必要な研修会を実施します。

- 「＋１セミナー」の開催（年４回程度の開催）

年に４回程度、寄付や市民公益活動に関するセミナーを開催します。通常は無料開催で、外部講師招へい時やファンドレイジングに関する専門講座は有料で開催します。2024年度は、内部人材育成の機会としても活用し公益法人の運営に関するテーマも取り上げます。

- 講師派遣（年１回以上）

依頼のあった地域、団体に講師派遣を実施します。

- ノウハウ移転事業（２団体以上）

自治体や公益団体に対して、資金調達や資源（補助金等）活用についてノウハウ移転および支援を実施します。2024年度は、瀬戸内市の協働事業やサンフラワー基金などの公益法人の運営支援を実施します。

- ソーシャルライター講座の開催（年１回以上）

地域の情報を発信するソーシャルライター講座を開催します。今年度は、助成した団体の活動発信を意識し、講座受講後に発信、交流の機会提供を行っていきます。

- 公益人財の育成

学生や若手の公益アルバイトやインターンシップの仕組みの構築を行うとともに、事務局や理事が公益法人運営に関する知識や経験を高められるような年次計画を策定します。

D.調査研究事業

地域資源に関することや資金調達に関すること、地域課題に関することの諸調査を行い、その成果を発信するとともに、効果的な資源循環の仕組み構築に役立てます。また、必要に応じて、Share 会議（市民団体による公開課題提案）を実施し、地域の課題のタネを収集し、調査研究や資源循環事業へと発展させていきます。

■ 奨学金ネットワークの拡充

「学びの支援」について国の制度設計もすすんでいるが、コロナや物価高等の影響で、学びに金銭的不安を感じている人は多い。昨年度構築したネットワークをもとに、情報の集約化と勉強会等の場づくりを行い、奨学金制度実施団体や NPO 等支援団体とのネットワークを拡充していきます。

■ ももたろう基金をはじめとする平成 30 年 7 月豪雨における

災害支援活動最終報告書作成

2024 年度内に全ての「ももたろう基金」助成事業が完了見込みであることから、令和 6 年度総社市市民提案型事業の補助金を活用して、平成 30 年 7 月豪雨における災害支援活動とその運営ノウハウをまとめた最終報告書を作成します。支援団体へのヒアリング等を通して、情報を集めることはもちろん、関係性を再構築していくことで、今後の災害に備えた体制強化にもつなげていきます。

■ 医師会との非常時の連携に関する調査

災害やコロナのような非常時に医師会と連携した基金の設置や事業の実施（合同研修の実施等）などの可能性について調査します。

■ 地域調査員の活用（年 1 回以上）

情報収集・発信体制の強化のために、地域調査員や地域の核となる NPO を対象に情報交換会（交流会）を開催いたします。

■ コミュニティ財団や社会的投資市場に関する研究

全国コミュニティ財団協会の情報交換会や会議を活用し、他県の状況や助成事業に関することなど情報収集を行います。

■ 「みんなの活動」助成団体連絡会の開催

平成 28 年度から実施していた地域力向上支援事業の内容を継続し、自治体や公益団体、金融機関と情報交換会を実施するとともに、合同説明会の開催を他の助成団体と協力して行います。また、地域の事業を育てる助成事業のエコシステムの構築を検討していきます。

■ 「Share 会議」の開催 （年 4 回程度）

NPO 団体の事業相談や事業拡大の場として、活動発表の機会を設けます。特に割り勘申請団体の活動の拡散や、地域で必要な取り組みを育てるため、地域調査員や理事から情報収集を行い、候補団体に情報提供を行い、活動が進むようなサポートを行います。

**2024年度も
よろしくお願いします！**

